

第5回ふくふくイベント

どうしていますか。日本語の学び。

今回のテーマ

今、世界には複数言語環境で子育てをしている人が、たくさんいると思います。今回は、そんな子どもたちを育てながら、日々、家庭や学校、地域で日本語を含む親の言語、地域の言語も使って生活しているお母さんに日頃の思いを直接伺います。家庭で日本語をどう教えているのか、補習校に通わせているのか、子どもたちの反応はどうかなど、ふだん会えない人、他の国に住んでいる人とも意見交流をしたいという、今回の企画に、ドイツ、スペインからお二人のお母さんが参加されます。お二人には、アメリカ、オーストラリアで子育てをするメンバーが話を伺います。世界各地の複数言語環境での子育てについて、気楽に、おしゃべりしてみませんか。

対象者

- 複数言語環境の子どものことばの教育に関心がある方
- 子育てをしている/していた方
- 複数言語環境で育った経験がある方など、どなたでも気軽にご参加ください。

(定員20名)

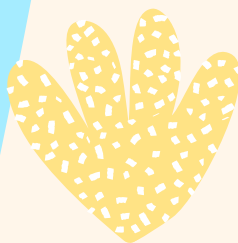
2023年4月2日(日)
15:00~16:30
(日本時間) @Zoom

申込先

URLかQRコードにアクセスし、
Googleフォームに入力してください。
締切2023/3/31 23:59

<https://forms.gle/3azWniiWo7xrGDQBA>

イベント前日に、
ご登録いただいたメールアドレスに
Zoom情報をお送りいたします。



あたしたちが運営しています

「複言語・複文化 子育てネットワーク」

わたしたちについて

早稲田大学大学院日本語教育研究科の修了者が集まった、有志のグループです。複言語・複文化で子育てをしている方々と「子育て」について一緒に考えていきたいと思っています。現役のママパパが中心に活動しています。

ふみさん

日系アメリカ人の夫と国際結婚をし、ハワイで子育てをしています。複数言語・複数文化の中で育つ子どもたちが身近にいるハワイで、自分の子育てを通して、子どもたちのことばの学び、ことばの育ちについて考えています。また、こちらの大学・高校・中学でも日本語を教えています。



川上郁雄せんせい

オーストラリアで子育てをしました。娘は現地の小学校へ入学し、土曜日に補習校に通いました。日本に帰国すると、娘は「帰国子女」となりました。その経験から「移動する子ども」学を研究しています。



kさん

スペイン人の夫と、男の子、女の子の子育てに奮闘中です。子どもたちは日々成長しながら、どんどん新しい課題を私たち夫婦に持ち込んでくれます。その課題に向き合いながら、子どもたちのことばについて考えています。現在、中学・高校・大学の日本語教育に携わっています。



あいこさん

2歳と6歳の男の子を横浜で育てる傍ら、高校で日本語を教えています。日本語講師として海外を転々とした経験から、自分の軸を探すためYOGAに出会いました。「ありのままを受け入れる」考えに触れ、親子のコミュニケーションについて考えるようになりました。ほっとリラックスできる時間をみなさまと過ごせたらと思います。



ゆうこさん

幼少期に、日本国内で引っ越し10回、転校4回を経験した、国内版「移動する子ども」でした。現在は大学でアカデミック・ライティング教育を担当しています。3人の子どもをシュタイナー学校・幼稚園に通わせる中で、親子の関わり、人の成長、ことばについて、日々学んでいます。



しょうこさん

韓国人の夫と国際結婚し、東京で暮らしています。文化の違いを楽しんだり、国と国との関係に戸惑ったりしながら、日常をとおして複言語・複文化家族について考えています。また、地域の日本語教室で外国人の子どものための日本語支援活動にも取り組んでいます。



森沢さん

日本語教育に携わってから、早17年。子どもの言語教育を考えるきっかけとなった息子も27歳になりました。現在の研究テーマは、外国ルーツの大学生のことばの問題です。自分を語る術を持たない学生にどんなアプローチが有効なのか、模索が続いています。週末に飲むワインと日本酒が活力の源です。



ちのさん

現在、オーストラリアで10歳になる男の子を育てています。複数言語環境での子育てについて、共に悩みや喜びを語り合い、あったかい時間を共有できたらと思っています。ふくふくイベントを通して、いろいろな背景を持つ方々との出会いに期待しています！



MIKIさん

小学生の双子の母で日本語教師をしています。自分の時間も睡眠時間も取れなかった双子の乳幼児期、双子ママとのつながりに救われました。同じような環境にある方々が、子育てやことばの教育をめぐる想いや悩みを共有することで、ママやパパの笑顔が増え、子どもたちの笑顔も増えるような活動ができればいいなと思っています。



みかさん

子どもの日本語教育に携わっています。私自身、引っ越しは十数回、転校は5回の国内版「移動する子ども」として、子どもの視点に立った教育実践を日々模索しています。

